

せいぶ館通信

第26号／2005年(平成17年)5月／発行：(財)合気会神戸支部せいぶ館 編集・文責：佐藤彰雄・玉村淳子

支部長：中尾眞吾 道場長：濱崎正司／〒650-0011神戸市中央区下山手通8-20-17 えぬビル3F白蔭林内 TEL(078)382-1659

祝 昇段おめでとうございます

五段昇段お祝いインタビュー

この度、和田さんと松平さんが五段に昇段され、3月20日に元町通の若竹でお祝い会が催されました。その様子をここで少しお知らせしましょう。よく読むと先輩方の過去や色々な人間関係がわかっておもしろいですよ！



打越：松平君、和田君、五段おめでとうございます。それでは乾杯！

和田：本日はこのようなお祝いの席を設けて頂き、本当にありがとうございます。20歳で合気道を初めて今年で34年になりましたが、こんなに長く続けられてこられたのも合気道そのものの魅力と、今までご指導を受けた先生方、道場の先輩方、一緒に稽古してくれた仲間たち、そして家族のお蔭だと思って感謝しています。

この春の試験を区切りに休会するというのに、五段を受けるという変な形になってしまいました。今まで何回か声をかけて頂いていたのに受けなかった理由は、打越さんに一緒に昇段してもらいたかったということが第一ですが、自分の中で五段のイメージがつかめなかったということもあります。合気道を始めた頃は何とかして黒帯を取りたい。しばらくしてからは一人前として認められる三段をとりたい。そして四段をとれば三段としての力があると認められるんじゃないかということで、四段までは自分の中で納得できていましたが、五段についてはなかなかイメージがわいてきませんでした。でも今回は、昨年秋に中尾支部長から声がかかる前から、もし声をかけてもらえればぜひ五段を受けたいと思っていました。その理由は、このたび合気道をしばらく休会するので、今まで30年以上合気道をやってきた区切りとして五段を受けたいということです。今回も打越さんに一緒に昇段して

もらえなかったのは残念でしたが、自分と同様に、打越さんには打越さんの六段に対するこだわりがあり、これは他人にはどうしようもないことだと思うようになりました。

休会の件ですが、今年の夏頃、ちょっとやってみたいと思えるものに出会ったのですが、それは合気道と並行してやれないということなので、合気道はちょっと休んで、期限を切ってそちらに集中してみようと思っています。石の上にも3年といいますから、やるからにはとりあえず3年間がんばってみようと思います。その後は、3年経ってから考えるつもりです。休会してまで何をやるんや、ということになりますが、今はきっかけをつかんだだけで話せる中身がないので、誰にも話していません。しばらくは内緒です。

最後に、後輩の皆さんに対するメッセージがあります。皆さんが三段以上になって声がかかれば、ぜひ、クラスを持ったり、チャンスがあればせいぶ館の外にも出て行ってもらいたいと思います。教えることは学ぶことと言われていますが、最初は苦労しても、その何倍も得るものがあると思います。私も中尾支部長から声を掛けて頂いて、火曜日夜のクラスの他に、3年前から県立武道館の親子合気道教室2期と合気道教室1年、1年半前から明石道場で教えることになり、大いに勉強になりました。その火曜日の夜のクラスは佐伯君に、明石道場は草野さんに引き続いてやって頂けることになっています。また、せいぶ館通信も佐藤君を中心に玉村さんらの協力で続けてもらえそうでほっとしているところです。本日はどうもありがとうございました。

松平：本日はどうもありがとうございました。本当に嬉しく思います。私が合気道を始めたのは昭和51年、高校生3年の時でした。「あなたはねえ、詰襟着て来てたわね」って言われた、多分そんな服着て行ってたんでしょう。今、五段という身に余るすごい段を頂いたんですけど、その当時ちょうど横田先生が道場長をされていて、五段でした。当時精武館で初段を取るには5年かかるといわれていたので、初段になるのいつになんねん、五段になんのっておい、いつになんねんという話でした。その時は、五段というのはすごい雲の上の段であって、俺は絶対無理やなと思ったのを覚えています。その時、素晴らしい目標としておられたのが和田さんであり、打越さんであり、中尾支部長でした。こういう素晴らしい人たちが続けてるんやから俺も絶対続けよう思て、続けてこれたと思います。やから、私はすごくラッキーやと思います。すばらしい先輩に恵まれて。下手くそなりに続けてこれたのは、多くの先輩方に恵まれてだと思います。せいぶ館に育んで頂いて、育てて頂いたという思いがあります。で、またこれはせいぶ館の伝統だと思います。

ともかく、皆さんのおかげでこうして来れたと思います。で、あの、私の後から来た人がたくさんおられますけど、とにかく続けてください。続けて頂いたらいつかこういうことが、いつかじゃないな、もっと早く来ると思いますから。続けていけるようなお手伝いは、また、誠心誠意させて頂きたいと思いますので、どうぞ諸先輩方ご指導ご鞭撻お願いします。それから皆様方、お付き合いください。よろしくお願いします。

佐伯：えー和田さん、松平さん、おめでとうございました。まああの、先輩は私にも職場とか他色々いるんですけど、本当に尊敬できる先輩というのはこのせいぶ館にしかいません。(場内拍手)和田さん松平さんはね、それぞれ、和田さんは力強い印象があって松平さんは柔らかい印象がある。それぞれ技術をもたれてるんで、私はお二人を吸収したいと。尊敬してるんです。大体、すぐ抜かれる先輩が多いんですよ、世の中には。まだお二人には学ぶところが多いんで。ま、和田さんはしばらくはさされるそうで、また帰ってきて引っ張っていつてもらいたいと思います。おめでとうございました。

新井：僕がひとつ言いたいのは、技以外に五段というのは見習う点がたくさんあるんで、これから技以上に人間性で見習いたいと思います。そういうことです。ありがとうございました。

山下：和田さんの時間は残念ながらあまり行くことができなかったんですけど、姫路の方のお手伝い

をさせて頂いて、あーやっぱり行っとったら良かったなあと、残念やったなあとってます。それから松平さんは、それこそ私始めた頃に第二道場の土曜日の朝の時間にね、よく教えて頂いたんですけど。「どないしたらいいんや」と言うとな、よくこう「頭かいたらいいんや」とかね、ごっつい力しとんな言われて、思い切り握ったら技かけられて投げられた、というような印象がよく残ってます。ま、これからもご指導のほどよろしくお願いします。

井出：和田さん、松平さん、おめでとうございます。えー、和田さんの印象はもう、あのねちっこい技とですね、もうどこまで手がついて来るのかなと思うくらい、床までついて来るくらい離さないというような技で、いつも稽古すると最後は息が乱れて。和田さんの方はスツとしている。松平さんはいつも受けをとっていると「ほんまに効いてんかあ？」というようなことをおっしゃりながら、だけどほんとに松平さんの方も非常にねばっこい、けども柔らかい技をされて。お二人ともいつも自分の目標にさせてもらっている先生であります。これからも益々我々にいろんなことを教えて頂きたいと思います。本当におめでとうございます。

古手川：今日はおめでとうございます。和田先生はもうあの、私がほんと初心者の頃によく行ってまして。初心者にはちょっと二人掛けだの三人掛けだのしんどい技が多かったんですけど。ま、あとはあのビール友の会でちょくちょくお世話になって。で、最近は松平先生によく土曜日の稽古でお世話になってます。そう、この前ですね、バレンタインに松平先生に手作りチョコ渡したんですけど、忘れて帰られまして…（場内どよめきと笑い）

しかたがないので香山さんにあげました。（場内どよめきと笑い）

鳴嶋：和田さん、松平さん、おめでとうございます。ほんとに自分のことのように喜んでます。僕合気道始めてそろそろ4年になるんですけど、4年間ほんとに昨日のような感じであつという間に時間がたってしまって、合気道初めて1年の時間っていうのはこんなに短かったのかなあと。お二人は30年から35、6年というキャリアでやってらして、いろんなことがあったんだろうなと思うんですよね。だから、物事続けるっていうのはやっぱり好きだったのかな何だったのかなと。今、自分も4年間があつという間に過ぎたから、死ぬまでやってたら三段くらいまでは僕はいくかなと思ってるんですけど。頑張ります。これからもよろしくご指導ください。

長谷川：えーっと。和田先生、松平先生、五段昇段おめでとうございます。とても残念なんですけど、和田先生がもうせいぶ館で教えて頂けないと。あ、もうじゃない？ ちょっとの間といっても、とにかく私はそれがすごく残念で。せいぶ館が日曜から土曜まで先生がそれぞれ違って、それぞれ個性があって、とても何か充実内容が濃い、よそのことはよく分かりませんが。和田さんという個性も私にとってはすごく、なんと言うんでしょうか、まあ、またいつかせいぶ館にお元気なお顔を見せてください。松平先生はもう言うことなく明るくて天真爛漫で素敵で先生なので。これからももっとうつと私達と稽古してください。ありがとうございます。

岡田：和田先生、松平先生おめでとうございます。お二人の稽古にはそんなには出てないんですが、それぞれ非常に個性の強い方で。ま、和田さんの場合は50半ば過ぎてんのにも受けを取らせて頂いてありがとうございます。それと何か、本気で打ち込んでも大丈夫だなという方だと私は思ってますし。それと松平さんは、こういう冗談の中ですけど非常に分かりやすい稽古。だから流れで流されてしまう時に、もういっぺん原点に帰れるような稽古をされてるんで、たまに行くと「あ、こういうことが合気道にはあるんやな」ということを教えて頂いてますので非常にありがたいと思ってます。今後ともご活躍を期待しております。

打越：えー、ちょっと兄貴が一言。えー二人とも長い付き合いなんですけど、松平君は高校生くらいかな？ 若い頃は若いやつ来とるわとそんな感じだったんですけど、僕が結婚したあたりに松平君夫婦と4人で車でいろんなどこ連れて行ってもらった思い出あるんですよ。で、それから付き合い長いんですけど。ま、今日の五段頂いたというのは、彼真面目だし真面目で続けてきたんが今日に繋がったんやと思います。で、佐治君さっき言うのとたみたいに、肩抜けたんも私2、3回見たしねえ。抜けた時に警察連れて行ってね。いや、病院開いてないねん。で、派出所連れて行ってね、そのポリさん入れたる言うたんやけど、わしこれ入れたらもし失敗したら腕おかしなる言うて生田警察に電話入れてくれてね。柔道やってる人…

(松平：小笠原さんいうたかな)

その人が…

(外野：肩はめずに手錠はめてね) (場内爆笑)

まあよう聞けよ。合気道の技はあいつたいしたことないねん。(場内笑)

(外野：先生今日お祝いですよ?)

でもね、俺が一番言いたいのは、彼癌を克服してね元気になったと、これに拍手をしたい。どうか拍手を。(場内拍手)で、和田君なんですけどね。彼も20歳くらいかな、稽古し出したん。で、稽古終わって帰り道おんなじ方向だったもんだから、よく新開地で一杯飲みました。必ずね。で、まあ兄弟のように付き合ってもう随分なるんだけど、ま、彼は人の話そんなに聞くタイプの男ちゃうし…

(越子：そうやろ～) (場内爆笑)

我が道を行くタイプやと思うわ。

(越子：そうやと思うわ～) (場内爆笑)

で、あの、合気道の方は、彼あんまり人気ないやんね。

(和田：お祝いですよ)

でもね、嫁はんおるけどね、若い時のあいつね、女の子にようもてたんや。皆知らんやろ。で、僕ら全然あかんかってね、佐治君。いやほんまに。あいつよおもてたんや。うん。ほんま。嫁さん知らんやろ。今回の五段のことも4、5年前から話があって。彼は僕と一緒に上がろうと言う気持ちをずっと持ってたみたいで。僕はもう思うように体が動かないと。で、段をもらう必要もなくなったからいう話を正月にして。で、今回彼ははじめをつけて五段をもらったと思います。で、ま、皆さんも僕の真似せんと、上の人から推薦頂いたら素直に皆さん頂いてください。僕の真似をしないように。

和田越子：松平さん、お父さん(和田さん)おめでとうございます。ま、長くしてきてほんとにこの度すごく素直に、この段を頂くのを心から喜んでる様子があって。皆さんにもお祝いして頂いて本当に嬉しく思っていると思うんです。今まで合気道をしてて、また何か新しいことをするみたいですけど。松平さんもそうだと思うんですけど、ずっと人生の本当にたくさんの部分を皆さんとしてて、忘れずにまた頑張ってもらいたいと思います。おめでとうございます。

お知らせ

前回までは「せいぶ館通信第19号(通算25号)」という表記になっていましたが、今号から「せいぶ館通信第26号」になっています。

震災後、一度閉鎖した精武館が新しい道場を建てた時に、名前をひらがなにして再出発をしました。そのため1996年(平成8年)11月発行から、「せいぶ館通信リニューアル第1号(通算第7号)」となっていたのですが、ひとつのほうが分かりやすいという意見があり、今回から一本化させて頂きました。

ガスファンヒーター

中尾真吾／支部長／六段

寒稽古の真っ最中、今年一番の寒波襲来! という1月の末、せいぶ館にガスファンヒーターが鎮座した。

画期的なことである。まさか、せいぶ館に、暖房器具が入るとは、思ってもみなかった。実際10年前のせいぶ館の設計段階で、道場にガスを引くなんて事は考えられもしないことだった。

高齢化、である。何年か前から、会社を引退した人達の為に、「シニアクラス」を作ろうと、濱崎さんに相談をした事があった。平日の夕方にでも、とりあえず週に一度のペースでどうだろうか? と。

その必要が無くなった。朝の稽古が、「シニアクラス」になったのだ。(若い人、来て下さいよ。)

最近の朝稽古、何人かの若い人も来てはいるが、若さがムンムン、という状態ではない。時々、平均年齢が、50代半ばで、「受け」に呼ぶ人を誰にしようか? と悩む日がある。

「何のため するの マイナス2度の 朝稽古」(ミホちゃん作) ほどは、冷えもしない暖冬の日々ではある。しかし、朝の稽古はさぶい。今年も一回、零度の日があった。2℃ほどの時は何回か。(茅野の人に笑われますよね、御子柴さん。)

「身体が冷えている状態で稽古をすると、怪我もし易いし、稽古の始めは、せめて窓を閉めときましょか?」と言った日以前は、真冬でも「窓全開」だった。それも、率先して開けるのは、70歳に近い、福長さんだった。「足が冷えたら、身体に悪いから、足袋を穿いてもよろしいよ。」今や、福長さんも、足袋を愛用している。

(どんどん、ひ弱な道場に成り下がる。)(ええのだ、辛い辛抱をするよりも、その時その時を大事にするのが、大切なのだ。)

「僕は、こんなんがある道場は、あ ん ま り 好きではないです。」と白井君。(私も…)

準備体操の時、毎回その文明の利器の真ん前に陣取り、念入りに、機嫌良うに、身体をほぐしているのは、T氏。(ご存知、あの…毎日…稽古オツちゃん。)

稽古の後に(身体は温もつとる筈やのに!?) すぐに点火しているのはA元嬢。(不思議やなあ。)

特筆もんは、I氏とM氏。「審査前に、特訓をしたいので、臨時に道場を使わせてもらえますか?」との事で、それほど寒くはない日やったのに…彼らはストーブを焚き、汗だらだら稽古。1時間ほどの稽古の後、(窓を開けた状態で) 温度計を見ると13℃! だった、らしい。「京都議定書はどないなつとるんや!」

これらの人たち、全て、史上最強・最多の「団塊」の世代。おそろべし!!

「…物を増やさず、むしろ少しづつ減らし、生きている痕跡をだんだん消しながら、やがてふっと消えるように生涯を終ることが出来たらしあわせだろうと時々夢想する…」

私の好きな作家の言葉である。「没蹤跡」か?

が、そう生きていくことは、至難だ。

さあ、どうする?!

‘05. 3. 31



平成16年3月度昇段・昇級 おめでとうございます



弐段	春山佳代 新井宏伸 衛藤譲二 香山和宏
初段	五十嵐康人 村尾邦明
1級	坂本泰子 エステラ・ディーン 今井信雄 山本梅子 角田リサ 松延馨 杉村廣美
2級	松田毅 田中一成
3級	遠藤綱一 杉浦永治 坂本幸子 ボロトフ・ディーマ 大本康智 谷本健一
4級	佐々木国雄 田中圓子 松本富美恵 大西美恵
5級	広池正道 中島史人 小川由里子 杉山義隆 大塚隆 日高由美子 高見直人 戸國由佳子
7級	太田百合香 田中亮多 鶴木義晶 青山祐輝 和田悠樹 高木惇平
8級	古沢真琴 中谷政人 渡辺育未 常峰瑛宏 一宮大樹 北川宗樹 春名優里 遠藤文美 河内元
9級	金築初音 田中淳一 中嶋太郎 古沢亮太郎 高木秀梧 青山澄香 児玉悠
10級	児玉渉 田中佐和子 澤本佳奈 黒田大雅

第4回せいぶ館稽古完遂者(8名)

エステラ・ディーン 坂本泰子 鳴嶋保雄 中尾眞吾 角田リサ 益田和芳 松延馨 山崎高司

2004年 稽古回数ベスト10

①玉置	373回	⑥鳴嶋	206回
②角田	313回	⑦松延	200回
③中尾	305回	⑧岡田	182回
④明子	222回	⑨ディーマ	182回
⑤紙谷	212回	⑩村尾	177回
		⑪神谷	161回

《一般クラス・昇段昇級感想文》

五段に昇段させていただいて

松平秀利／五段

この度五段位を賜り誠に有難う御座います。私ごときが、五段になるなんて今でも信じられない気持ちで一杯です。先日のお祝いの会でも、本当に多くの方に祝っていただき誠にもったいないことで、心より感謝しております。ひとえに素晴らしい先輩達、後輩の方たちのお陰です。

私が合気道をはじめて今年で29年になります。私が合気道の稽古を始めた当時は、横田先生が、道場長をしておられました。しかし、その時は先生のお仕事の都合で道場に来られず、

実際にお会いできたのは、数ヵ月後であったと思います。

その当時の横田先生が五段であったのではないかと思います。私が精武館(もちろん、今のせいぶ館ではありません)に入門した頃は、初段を取得できるのに大体5年程度かかると言われており、私などはいったい何時になったら初段になれるのか、ひょっとしたら無理ではないかと思っていたくらいでしたので、横田先生の5段という段位は雲の上の話でした。まさか自分がそうなるなんて思いもよらぬことです(もちろん、誤解のないように申し上げますが、自分自身が横田先生と同じだとは露程も思っておりません)。また、私より先に五段になられている先輩方の

足元にもおよびません。

未だに自分自身は、未熟であります。さらに「稽古を続けなさい」との励ましであり、「新たな可能性を稽古において見つけなさい」との御指摘と捉え、これからも稽古を続けていきたいです。そして先輩たちに1歩でも近づけるように、より高い目標を目指して稽古を続けていきます。

ここ数年、稽古の時間から離れた時のあり方を考える時が増えてきたような気がします。即ち、普段の心の有り様といったものだと思いますが、稽古の時と違うのでは無く稽古の時のように(?)集中しつつもどこかリラックスしていて、心も体も自由に動くようになりたいと思う時があります。決して、力まず、しかし弱々しくなく、どこか芯の通った人になりたいと思います。それが、ある種の強さなのかなと最近特に思います。

「あわてず、驚かず、うろたえず」とかつて遠藤先生がおっしゃられたことを最近良く思い出します。まだまだこのような状態に程遠い私ですが、これからも稽古を続けて遠藤先生のおっしゃられたような状態を目指したいと思います。これからも多くの方たちと稽古をし、そして悩み、迷うことが多々あるでしょうが、絶えず心のアンテナをはりめぐらし、心の柔軟さを持ちながら稽古を続けて行きたいと思っています。

私の好きな歌手のカーペンターズの歌の詩の中に「私たちの人生は今始まったばかり。We've only just begun to live…」(愛のプレリュード)と云うフレーズがありますが、今私もまさに新たなスタート地点に立たせて頂いたと思います。このような素晴らしいチャンスを与えてくださった中尾支部長をはじめ、濱崎道場長、打越副道場長、諸先輩の皆様にご心より御礼申し上げます。そして最後に我が家族にも感謝致します。

受けは攻め、受けから取りを学ぶ

新井宏伸/三段

登山口(初段)から出発して、今三合目あたりを登っているように思います。これからの道は急な坂道ではなく、なだらかな坂道をこつこつと登るように思います。頂上は見えませんが(私の登山の経験から)。

私は合気道を始めて十年以上になるのですが、入り口は広いのですが奥があまりにも深く、色々悩むことがあります。特に受けを取ることにに関して、自分は技もかかっていないのに倒れ

ている、受けのための受けをしていないか、もしくは本能的に受けを避けている時があったり等々。

今回の試験では何かテーマを持ってやりたいと思い、私の取りに対して受けには出来るだけ力をもって攻めてくれるように念じながら審査を受けました。そして岡田さんの短刀突きは、まさしく今までで一番真剣な取りでした。その時のことは良く覚えていて、肩に力が入らず岡田さんの顔だけが見えて最高に集中できたように思います。

これか!(その後は力が入ってしまいました)

その後の食事会で、受けに関し各先生方の言われたことが本当にためになりました。

これからも受けをたくさん取って合気道の技が上達するよう頑張ります。感謝。

叩かれてありがとう

衛藤 譲二/三段

この度は、二段をいただきありがとうございました。

審査を受けるからにはカッコよくしたい。とずうっと思っていて、初段をいただいてから5年が過ぎていましたが、稽古不足はどうしようもなく、今の実力ではやはりそうは上手くいきませんでした。しかし、自分自身では何かすっきりした気持ちと、更に嬉しい気持ちで一杯になりました。

それは特に受けに出て来て下さった皆さんに何か愛情のようなものを感じたからのような気がします。沢山叩かれたり切られたりして、本当にどうもありがとうございました。こんな事では本当は駄目かも知れませんが、これからまた稽古を続ける事で何とかしようと思います。

今回、久しぶりの作文ということで昔の自分の作文を見返してみましたが、「強くなりたい」と、よく書いていました。しかしそのせいか、合気道で重要な、力を抜く事が今でもできずに、かなり苦労しています。一旦、強くなろうというのは忘れた方が良さそうです。まずは、自分の重心位置を意識することと、相手との関係を感じられるようになる事に気をつけて稽古をしようと思っています。

合気道はとても難しいですが、やっている人は良い人がとても多いので、なるべく長く続けていきたいと思っています。ですので皆様、これからも、どうぞよろしくお願い致します。

「まだまだ」

香山和宏／武段

この度は武段を頂きありがとうございました。

私がせいぶ館に通い始めた頃、稽古の時に先生が「まず受け身出来るようになりなさい。そうすれば取りの人の動きを冷静に見れる余裕が生まれ、自分が取りの時もどの様に動けばいいかが解る様になるから。」と言われたことがありますが、当時はその言葉を気にも止めず早く合気道が上手になりたいと必死で稽古に行っていました。

一年ほど経ったある日、体の調子が悪いのに無理をして稽古に行き受け身を失敗して肩を脱臼、手術をして半年ほど合気道ができなくなってしまい、その時初めて先生の言葉を考えながら稽古をしなかったことを深く後悔しました。

あれから5年が過ぎてもまだまだ未熟な合気道をしています、受け身をとって稽古をし続ける難しさと面白さが最近少しだけ解った様な気がします。

自分自身の合気道は年齢や経験で変わっていても、これからもせいぶ館に通い始めた頃に聞いた言葉や教わったことをもう一度噛み締めながら何歳になっても受け身を取り続けられる様に稽古をしていきたいと思っています。

合気道について

香山佳代／武段

私は、そうなるべくして起こることを、運命と呼ぶことにしている。

私は仕事のためのスキルとして、人の集まり(集団・グループ)をよく活かすための心理学を勉強している。合気道もそうだが、この心理学とも、出会うべくして出会ったという感がある。偶然、なのかもしれないが、運命に吸い寄せられたようにも思える。運命と言うと大げさな言い方だが、人生は意外に、運命的な出来事の連続ではないかと思う。

大人数で話をしていると、いつもまわりを楽しませる人がいたり、大人数は苦手な人がいたり、やがて小人数で話し出したり、ある時は全員が一人の話を聞いていたり、色々なことが起こる。色々なことが起こっているが、これは一人ひとりのこころの動きがあり、それが互いに影響し合って、そうになっている。グループ・ダイナミックス(集団力動)の結果である、

という。

つい最近だが、稽古も同じことではないか、と思った。稽古に行くか、行かないか。どの辺りに座るか。この技を稽古するのに、誰にお願いするか。誰と稽古するかは偶然ともいえるが、一人ひとりのこころの動きがあり、互いに影響し合ってそうになった、と言えるのではないか。

一人ひとりのこころの動きも、様々な要素が影響している。その日の出来事や、体調によって、楽しい気分の時もあるし、落ち込んでいる時もある。個人の「今まで」とその場にいる人との「今」、それらが絡み合いながら、技が変わり、相手が変わり、稽古が進んで行く。偶然の連続? いやいや、むしろ、そうなるようになっているのではないか。その日稽古に集まったメンバーも、組んだ相手も、その日出会うべくして出会った気がする。私の定義で言えば、運命的、ということになる。

ある日、本を読んでいて、私が運命と呼んでいるものを「氣」と呼んでいた。お互いの気が合うこと…あ、稽古はまさに「合気」だ。

出会い

五十嵐康人／初段

2000年7月に、当時同じ事務所に居た河田一樹さんに合気道を紹介されました。

何と云っても50歳になろうという歳だったので多少戸惑いもありましたが、中尾さんからもっと歳上の方も元気にやっておられますよと云って頂き今に至っております。

その後、河田さんは仕事の都合で合気道を止めてしまわれ逢う機会もなく残念に思っております。もう少し早くお逢いすることが出来ればと思いつつ合気道との出会いをつくってくれたことに感謝をしております。

それ以来、何とか4年7ヶ月続きました。

今回、初段を戴きましたが、もっと早くから始めていたら、素直に続けていて良かったと思えるのが、何かしら歳を加えているだけに忸怩たる気分が残ります。しかし、一層の自覚と責任をもって次の段階に望みます。

合気道を始めて、沢山の出会いがありました。皆様に指導頂きました。

有り難うございました。

後がない研鑽

村尾 邦明／初段

この度は初段を頂きありがとうございました。せいぶ館で稽古を始めて3年半、あっという間でしたが、日々相手をしてくださった方々の、それぞれのご教導を思い出します。

最初は、先生が示される見本の技をその時、その時真似するのが精一杯で、どの技を基礎とした技かとか、主に相手の攻めに乗じた技なのか、主に攻めを振り返す技なのか、主に捻りを入れていく技なのか、主に煽って技に導くのか、主にカウンターの技なのか等、分類とか、他の技との関連性とか全く考えることなく、ただ懸命に稽古をしていました。

2年程経ち、これまで教えていただいた技が、こうしろと言われれば、形を真似て出来るけど、頭の中に技として残ってなくて、言われないうとできないことに気づきました。2年もの間に教えていただいた様々な技を記憶に残さなかったことがもったいなくてたまりませんでした。それから、毎回の技を稽古の後書き留めることにしました。

1年半で随分の数の技が溜まりましたが、分類がうまく出来ず、似た技でも無関係のように並べて書いていました。これを、頭に入り易いように何度となく分類しなおし、いまだどり着いているのが、勝手に名前を付けて、相手と出会ったタイミングで投げる技として、引き技、返し技、振り技、落とし技、突っ込み技に分類しました。相手と取り合つての技として、捻り技、転換技、潜り技、巻き技などに分類しました。このように自分が理解でき順番に思い出せるようにしたお陰で、電車の中でも順番に色々な技のイメージトレーニングが出来るようになりました。

これらの中で、振り技を今の私の課題としています。振り技と名づけている技は、紐の先に石を結んで振り回すとき、紐を持つ手は石と反対方向引っ張りながら殆ど動きがないくらい小さく回しますが、石は高速で大きく振りまわります。これと同じように、相手が取る手を小さく回し、相手の重心を大きく振り回す投げ方です。中尾先生や栗林先生が受けを格好よく投げる時は、大概この振り技のように見えます。

人それぞれ研鑽の仕方があると思いますが、昨年遠藤先生が何かのついでに、年よりは後がないから、合理的に身に付けていかねばならないと言うようなことをおっしゃいました。私の

場合、正に後がありません。二段を受ける資格を得る時は六十歳です。日々体力、気力、意欲、視力、思考力が衰えて行く老化と競争しながらの稽古です。頭を使って合理的に技を身につけて行きつつ、日々研鑽したいと思っています。

試験の後の講評で、これまで硬いと言われてきた私が、先週ぐらいから柔らかくしようとしているように見えると言われました。まー、なんと嬉しいことでしょう。柔らかい芸風を身に付けつつある私の相手を嫌がらずに是非お願いして、芸風を確立したく思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

今回の試験

今井信雄／1級

昇級、昇段された方々、おめでとうございます。また今回、1級をいただきまして有り難うございました。今回の試験はこれまで受けた試験のなかでも特にうまくいかなかったので、その理由をいろいろ考えて、自分なりにいくつか課題を見つけました。次に試験を受けるまでに少しでもその課題をクリアできればと思っています。これからもよろしくお願いします。

次の課題は日本語...

エステラ・ディーン／1級

幸運なことに合気道は、人生のように、ただ単にテストで上手くやることだけではありません。つまり、私は必死にやっていたのです！

座って他の人が上手にやっているのを見ている時は、リラックスして、自信を持っていることは簡単でしたが、自分の順番が近づいてくると、頭が真っ白になり、後ろという言葉と裏という言葉をも混同し始めました！（※後ろも裏も英語ではbackという単語）

いずれにしても、このようなことにもかかわらず、私は1級に昇級できてとても嬉しく思います。私の受けをしてくださった方、そしてこの級になるまで、なかなか上達しない私を我慢強く助けてくださったせいぶ館の皆様、ありがとうございました。現在の私の次の課題は日本語を完璧に話せるようになることです。そして、できれば体の転換を、初心者に混乱させることなく説明できるようになりたいです。

この先をお楽しみに！願わくば上手くいきますように！ありがとうございました。

Fortunately aikido, like life, doesn't depend

solely on performing well in tests, or I would be struggling!

Sitting watching others perform so well, it's easy to feel relaxed and confident, but as soon as my turn comes around, the mind goes blank and I start confusing words like ushiro and ura! Anyway, despite, all this I was very happy to be able to pass 1-Kyu and thank my uke and all the other members of Seibukan who have patiently helped me to make my slow progress to this level. Now my next challenge is to perfect my Japanese so that I will hopefully be able to explain the process of tai no tenkan to a beginner, without getting them tied in knots!

Looking forward to the year ahead, hopefully without any knots! Thank you!

大満足の1級

坂本泰子／1級

9年目にしてやっと1級を頂きました。ありがとうございます。先生方の審査の総評として特別ヘタな人もいなければ特別ウマイ人もいないという事でしたが、私の中ではかなりイケテル方だったと一人思っています。いやヘタウマでいいのだ等と思っています。もともと運動神経は鈍くそこへもって年齢も加わり、覚えも動きもさらに悪くなっています。練習回数も月平均6、7回位です。T氏やT女史の練習回数はもはや人間離れしています。とてもそんなことは私には出来ません。9年かけてようやく辿り着いた1級です。一人で喜んでいます。

なんでダラダラと続けてこられたのか考えとてみました。それはせいぶ館の持つ自由な環境にあると思うのです。取りはヘタですが受けもヘタです。危険な受けは出来ません。が、出来なくてもそれをなじられることもなく、体力が持たなければ休むこともできます。こんな事を言うと叱られるかもしれませんが、特に上手くなってやろうとかドンドン級をとってやろうとかいう上昇志向も私にはありません。とにかく健康の為と始めたのですが、そんな私でも受け入れてくれる道場のおかげでこんなに長くやってこられたのだと思います。気負いしなくて良い分、練習は何だかいつも楽しいです。こんな私ですがこれからも皆様よろしくお願いします。体が動く限り合気道を楽しんでいきたいと思えます。

業魂(ことだま)

杉村廣美／1級

月に浮かべし母の顔こそ

永遠に見果てぬ夏の夜の夢

人は涙の数だけ恋を知り

そして闇の長さだけ愛に舞う

己の無力に気づく時

この世の旅に別れを告げる

君が心の傷は願い事をそつと言葉に変えていったなら

そこに魂が宿ることがあり

いつか願いが叶うはず

この魂は誰のものなのか yeah, yeah, yeah

今回の審査には新鮮さ、大きく、のびやかに、微笑をもってやろう、と臨みました。

水の流れるような動きを思っていたのですが、どうも私は流れっぱなしのようで…。鉄砲水ではなく、滔滔(とうとう)と流れる河になりたいものです。「ピリッと感」も入れつつね。

礼。有り難うございます。

いつも審査をして下さる先生方、有り難うございます。

悩みはつきねど集いは果てぬ

角田リサ／1級

もし、4年前グアム島で海に入っただけなのに息があがって体がクタクタにならなかつたら

もし、せいぶ館の会費が5000円でなかつたら

もし、ここであなたに逢わなかつたら

もし、合宿の日、私にとって衝撃的な言葉をかけられなかつたら

もし、あの夏、あの人にすくい上げられなかつたら 等等

沢山の"もし"が積み重なって現在の私があります。合気道は私の心の中のパンドラの箱を開ける役目もしたけれど、今は生活の一部となりました。精進によって明鏡止水の境涯に少しでも近づけたらとこれからも日々稽古してゆくつもりでおります。1級をいただきありがとうございます。

花粉症にも負けず

松延 馨／1級

1級。リーチです。

遂にここまでやって来ました。

花粉症に負けず審査を受けて良かった。今回の審査は今までで一番辛かった。受けを頼まれていなければ確実に休んでいただろう。それほど辛かった。

逆に考えると、受けを頼まれていたからこそ自分も1級に上がったのだ。私を指名してくださった皆さん、本当にありがとうございました。今後ともご最真に宜しくお願い致します。合気道バンザイ！！

地道に慌てず進む

山本梅子／1級

審査が終わってずいぶん長く経ったような気がします。審査直後は気分が落ち込んでばかりでしたが、それもやっと薄れてきました。やはり地道に慌てずに進むしかないな。と思い知らされました。それはそれとして、審査前に腰投げの犠牲になって下さった皆様。またその様子を困った表情で眺めて指導やアドバイスをくださった方々。それにつたない技の受けをしていただいた田中さん、衛藤さん。ほんとうにありがとうございました。

別れ方

田中一成／2級

この度は2級を頂き有難うございました。

昔から寒いのが大嫌いなので、冷たい畳を想像しては何度も稽古を休もうかと思いましたが、頑張って通った甲斐がありました。

そして今回、花粉症でダウン3秒前にもかかわらず、最後まで受けきってくれた相方…感謝っ！

数年前(20代半ば)に、慕っている上司にこんな質問をしました。「日々の生活の中で何か信念のようなものは持っていますか？」

するとその人は少し考えて「信念かどうかはわからんけど、人との別れ方は大事にしてる」と…。

当時はなんのことかわからずに「へ～」っと思っただけで、そんな会話をしたことも忘れていました。

しかし合気道を始めてから「出会い」「繋がり」「別れ」という言葉をよく耳にします。始めた頃は、取りも受けも必死でそんなことを考えて稽古をする余裕なんかありませんでした。投げてもらっても投げられても、きめてもきめられても楽しい、それだけでした。

そして今回の審査後に、中尾先生や濱崎先生に「受けが早い」と指摘をもらい、「受け」についていろんなアドバイスや大切さを話して頂きました。その話の中で強調されていたのが「別れ方」でした。

この作文を書いている時期(3月後半)は、一般的に別れの季節ではないでしょうか？僕の職場でも長年勤務し、苦楽を共にしたスタッフが数人退職し、また僕自信も人事異動で4月から新しい職場で働くことになりました。

良い別れ方をするには良い繋がり方を、良い繋がり方をするには良い出会い方を…そんなことを考えながら日々の生活と合気道を頑張ってみようと思います。

最後に、いつもアドバイスをくださる先生方・先輩方、そして受けを取ってくださる全ての方に、感謝します。

初心忘るべからず

松田 毅／2級

50にたらんとするある日、何を狂ったのか、突然に合気道をやりたくなり、翌日にはとある道場の門を叩いていました。それが今日に至っている次第で、結構面白く、楽しんでやっています。

こんなに面白いなら、もっと若い時からやっていたら、と言われる事もありますが、不思議に、そう思ったことは一度もありません。その時が、ちょうど時機だったのだろうと思います。

合気の技は、タイミングの取り方や柔らかさ、中心線上での捌きなど、難しい事が多いので、初めの頃はなかなかうまく行きませんでした。たまにうまく行くと、大変に嬉しく、その思いだけで続けているようなものでした。

「初心忘るべからず」

たまに練習に行く事が鬱陶しく思う日もありますが、始めた時の事を思い出し、自分を鼓舞するようにしています。皆様、今後ともどうぞよろしくお願いします。

練習が楽しい

遠藤 綱一／3級

この度は3級をいただきどうもありがとうございました。

実はこの頃練習がとても楽しいんです。別に色んな技を上手に出来る様になったわけでもな

く、相変わらず下手クソですが、前はちゃんと出来ているのか出来てないのかも分からなかったのが、最近では出来てないのが分かる様になったというか…。いやー、やっぱり出来てるのか出来てないのかも分からない状態ですが、楽しいんです。何ででしょ？

これからもよろしくお願い致します。

忘れない

大本康智／3級

入門して1年4ヶ月が過ぎ、3回目の審査で3級を頂き有難うございます。

此度の審査を通じて、今さらながらですが「自分は決して器用な人間じゃない」という事を実感しました。

これからはあまり昇級という事にはこだわらず、楽しみながら練習に参加していきたいと思えます。よろしくお願いします。

白帯時代は面白い

坂本 幸子／3級

最近、力が抜けてきたねと、言われるようになった。

そうか、自分では気がつかなかったけど、力が入っていたのか…。

稽古も、首をかしげてばかりいた最初の頃に比べ、楽に稽古できるようになってきた。といっても、あいかわらず「受け」をする時は、難しいと常に思う。呼吸法なんか得体が知れない。受身も、まだ頭を打ってばかりいる。いつになったら、受身ができるのだろう。あいかわらず苦手な入り身投げ。相手の崩し方がむずかしい。審査の時は、今までの審査の時にやったことがない失敗をやってしまった。それも好きな四方投げで。4級のままやと、つぶやいた。袴も当分おあずけ。でも、少しは面白くなってきたような気がする。とある有段者のかたが、おもしろくなるのは、3級くらいからと言っていた。有段者になるとさらに面白くなると思うけど、白帯の頃もまた違った面白さがあると思う。

今のうちに楽しんでおこうと思います。皆様、いつもお世話になります。

今一番の難題

杉浦 永治／3級

この度は3級を頂き誠にありがとうございます。

す。

さて、数ある課題の中で今一番の難題は、手を使わない空飛ぶ(転落する)前受身。手を使える前受身と手を使えない前受身は同じものなのでしょうか。どうも子供の時にも戦慄した飛び込み前転とイメージが重なり、恐怖を禁じ得ません。さらに転落する度に体重全てが腰にのしかかり、恐怖を増幅させます。

とにかくできる限り永らえて稽古に参加していくためにも、腰への負担を軽減できるよう、当面は身軽な受身と体重の軽減を目指して稽古に励んでいきたいと思えます。今後ともご指導の程よろしくお願いします。

せいぶ館に通う道で・・・

谷本健一／3級

皆さんとの稽古のおかげで無事3級をいただくことができました。ありがとうございました。捨てる神あれば拾う神あり、というのを実感しております。

週に2,3回のペースでせいぶ館に通っていると、同じ道でもいろんなことに出くわします。県庁の中庭にある森なんかは季節ごとに姿を変えるので、結構楽しめます。イベントやマラソン、交通事故を見かけることもありました。

ただその日の出来事は、事故ではありませんが、県庁と県警本部の間にある大きな交差点で信号待ちをしているときに起きました。交差点の向こう側にあるバス停で、人が踊っているように見えました。男性でした。体を大きく反らして腕を振っているのですが、何か違和感を感じました。そのとき信号が青に変わり、道路に注意を向けて歩き出しましたが、またそのバス停に視線を戻すとその男性は後ろに倒れていました。そして、大きな交差点の中ほどまで来たとき、自転車に乗った20代ぐらいの女性が、その男性にチラッと一瞥を投げて、手足をバタつかせている男性の真横をそのまま通り過ぎてしまいました。その直後に、今度は立派な背広姿の50代ぐらいの男性が歩いてきて、倒れている男性の方を見向きもせず、何事もなかったようにその真横を通り過ぎていきました。

周囲の人が全くかまわないのにビックリして「パントマイムか何かかな」と思いつつその男性の所に駆け寄ってみると、細身で身なりの整った初老の男性でした。なんとも言えない苦しそうな顔をしていて、手足が痙攣していました。

私が話しかけて顔を合わせようとしても、視

線がぐるぐる宙を舞っているような状態でした。119番に電話することは分かっていました。でも、いざ自分がするとなると判断に自信がありませんでした。数秒考えて、また前を通りがかった男性に声をかけて、様子がおかしい旨を伝えると、
「あー、てんかん発作ですね。救急車呼びましょう」
とあっさり。それからすぐ救急車が来て一段落…。

あれからもう数ヶ月が経ちますが今でもなぜかよく思い出します。もしも道端で倒れるようなことがあって、意識があったら、携帯を使うか、黙っていずに「助けてー」か、「救急車呼んでー」と叫んだ方がいいのかもしれませんが。

ところで、上とは全く関係ありませんが、こんな話があります。

農家で牛を飼っていた男性が、牛を牛舎に帰そうと鼻輪に繋いだロープを引っ張っているのですが、牛が反抗して全く動かず、綱引き状態になってしまいました。この牛を牛舎の中に入れるにはどうすればよいのでしょうか。

これからも頑張ります

ボロトフ・ディーマ／3級

この度は3級をいただきありがとうございます。せいぶ館に入会して1年と6ヶ月がたちました。これからも合気道を頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いします。

ほっとしました

大西美恵／4級／県立武道館

今回は4級を受けました。合気道を始めて2年になります。姫路の県立武道館で女性合気道教室から始まり親子合気道教室、一般の合気道教室も参加しいろんな先生方に指導していただきました。そのわりには上達してないのですが…。

試験前の1週間は本当によく練習したと思います。毎日、相手方と会い4時間近く練習した日もありました。気がつけば道場にいつもいるという状態でした。それでもなんとか合格できたという感じなのですが…。とにかくほっとしました。

四級をいただいて

佐々木 国雄／4級

このたびは、合気道4級をいただきありがとうございます。

5級をいただいて約2年。審査を受けようとするたびに、仕事が忙しくなったり、脚の踵をいためたり、病気になったりで本当に長い5級の期間でした。

さて、その脚を痛めたときから体のバランスについて考え始めました。中尾先生から、首が曲がっていることを指摘され、軽い気持ちで友人に紹介されたカイロプラクティックにしてみると、頸骨が曲がっていました。重症です。原因は、6歳の頃の交通事故でした。それから、首の矯正を始め一時体全体のバランスを崩し、上から下まで順に体を痛めていきました。それが落ち着き、また、ヨガを始めることで、最近やっと体のバランスがとれてきたところです。

さて、そんなこともあり4級の間の課題は、常に丹田に重心を置くことです。また、技の基本もできるだけ覚えていきたい。こんな目標を設定すると、4級の期間はさらに長くなってしまいかもかもしれませんが、今後も楽しみながら気長にがんばっていきます。

みなさま、いろいろご迷惑をかけることもあるかもしれませんがよろしくお願いします。

基礎と応用

田中 園子／4級

5級の審査を受けたころは、それぞれの技の形と名前を覚えるだけで精いっぱいでした。それから半年、上級者の技を見ていて気づくことの出来るようになったことがありました。「難しそうに見える技も、基礎的な技の組み合わせなんだ」ということです。当たり前といえば当たり前なのですが、稽古を始めたころにはそれが分かりませんでした。それが見えるようになっただけでも、稽古を続けてきた意味があったと思いました。

そんな上級者の鮮やかな技が自分でも見せられるように、少しずつでも上達していけたらと思います。そのためにますます、稽古を頑張ります。今後ともご指導、どうぞよろしくお願いいたします。

からだが...

松本富美恵／4級／県立武道館

せいぶ館に来るのは、5級の試験の時以来2回目でした。普段せいぶ館に通っていない私も、せいぶ館の雰囲気は分っていたのですが、やはり緊張しました。案の定、頭の中は真っ白になり、何も考えられなくなりました。ところが驚いた事に、身体は勝手に動いているのです。

「稽古して、忘れても、そのうち勝手に身体が覚えるから…」いつも先生が言われているのは、この事なんや！と家に帰って落ち着いてから初めて気付きました。

主婦の趣味程度にしか、稽古をしていない私は、毎回技は忘れっぱなしでしたが、今回昇級試験に向けて、いつもより多く稽古したこともあって、動き方だけは、身体が覚えていたみたいです。

と言っても、まだまだ中身はスカスカですので、これからは、中身をつめていけるような合気道が出来たらなあと思っています。

これからも、皆さん、よろしくお願いします。

練習あるのみ

小川 由里子／5級

この度は、5級をいただきありがとうございます。

習い始めた頃は受け身がうまくとれず、背中や腰を強く打ちつけていたので練習へ行く足取りが重かったのですが、みなさまに丁寧に教えていただいたおかげで、怖がらずにできるようになりました。受け身ができるようになると少し自信がついて合気道が楽しくなりました。が、肝心の技の方は姿勢が悪かったり、力で何とかしようとしていたりして上達するには課題がものすごく沢山あります。そして自分ではまだ気付いていない欠点も沢山あるので、厳しいご指導よろしくお願いします。

小さな一歩

杉山義隆／5級

この度は初めての審査を受けさせて頂き、5級を頂いた事、誠に有り難うございました。

学生の頃より運動部に所属していた為、試合慣れしているためか、本番では多少力みはあったものの、十分に気持ちを集中し、気持ちよく審査に臨む事が出来たように思います。客観的

にみれば、5級取得と言うのは小さな一歩にすぎませんが、これでやっと道場に名札をかけていただけたと思うと感慨深いものがあります。

せいぶ館に入門して7ヶ月、皆様のご指導の甲斐あって、大分力みも取れ、合気道をするための体になって来た様に思います。今後は正中線や臍下丹田などをより意識し、体の使い方を考えながら稽古に励みたいと思います。

稽古の際は、相手の方に物足りなさを感じさせてしまうかもしれませんが、何卒お付き合いをいただければ幸いです。

合気道にハマる

高見直人／5級／明石道場

今回、5級をいただきありがとうございます。やればやるほど合気道の面白さをかみしめる今日この頃です。

いつもは明石道場で週1回練習し、暇を見つけてせいぶ館に“チョット”のつもりで行くのですが、何故か暇がないのにせいぶ館にお邪魔してる次第でございます。

行動パターンが

1. せいぶ館に行く。
2. せいぶ館の方々はとても親切で的確に悪い所を指摘してくださる。
3. 帰りに「どうしても明日ためしたい」と思う。
4. 1に戻る。

ああ～、思いっきりハマってますね…。

いつまで続くかわかりませんが、これからも頑張って行きますので、せいぶ館にお邪魔した際はよろしくお願いします。

もっと稽古したい

戸國由佳子／5級／明石道場

この度は5級を頂きありがとうございます。実は、「次受ける時のためにどんな感じなのか体験しとくだけでも。」と、とりあえず受けてみようかなあといった呑気な考えで、試験を受ける気になったのでした。が、まず稽古回数が足りてないじゃないか(順番逆か)…てなわけがせいぶ館の方に行くようになったのでした。

続けて行くとなんだか楽しい。と同時に稽古に行く度、やっぱりもっと稽古しないとダメだよなあ私には試験受けるのはやっぱり早かったのかなあ…と最初の気持さはどこへやら、焦る気持ちもでてきてしまったり…。

こんなんで5級を頂いてしまってよかったのかしらと思いつつ。

でも試験をきっかけにせいぶ館に行くことができて、少しばかり視野が広がったような。よかったです。もっと稽古したい気持ちになりました。が、それが焦りにつながらぬよう、楽しく続けていけるペースで続けていきたいと思っています。

こんな物覚えの悪い私ですが、ご指導・稽古して下さった皆様方、感謝しております。そしてこれからもよろしくお願い致します。

「感謝感謝」

中島史人／5級

せいぶ館の一員に加えていただいて10ヶ月になります。

まだ手足がバラバラの私ですが、今回、なんとか5級をいただけたのは諸先生方、先輩方のおかげです。本当に感謝感謝の気持ちです。もちろん私の後から入ってこられた方々にも感謝。(合気道は一人では出来ませんからね。)

ありがとうございます。

私が初めて合気道に出会ったのは5年前。長期滞在中のニュージーランドでのことでした。合気道は今、すごい勢いで世界中に広まっていますね。国や地域の違いに関係なく、この素晴らしい財産が世界中に広まり、いつまでも残って欲しいと思います。

と、大風呂敷を広げる前に、これからは稽古をあんまりサボらないようにします…。

皆さん、今後ともよろしくお願い致します。

合気道の楽しさ

日高由美子／5級

この度は5級をいただきありがとうございます。

灘屋に勤めさせていただき、カウンターの中から楽しそうに合気道を語るせいぶ館の皆様を見始めて十数年。うらやましく思いながらも、どうも武道というものに苦手意識が働いて、横目で眺めてるだけだった私が、何故か2年前、入会し現在に至りました。

苦手だろうな、て、思っていた合気道。やってみたら、やっぱり全然わかりません。灘屋で聞いていた「合気道とは…」なんて全然理解できないし…。合気道を語る皆様方の話をただひたすら、「へーっ、そうなんだ。」と聞いているばかりです。でも、そんな中で、合気道を楽しん

でいる自分がいます。

それで、今の自分を見つめる意味でも、自分にとって、何が楽しいんだろう、て考えてみることにしました。

一、前受身をとること(なんか、体が軽くなった気がして気持ちいい)

一、四方投げで、くるって回る瞬間(現実と全然違うんだけど、私の頭の中では技っぽい感じがしている…)

一、先生方、諸先輩方から教えていただいたことをまがりなりにもして、「そうそう。」で言ってもらえたとき(単純だからほめられると嬉しい。それに皆さんの親切さが嬉しい)

一、合気道の宴会で色々な方のお話を伺える時(すごーくためになる話がいっぱい聞ける)

一、稽古後の灘屋のビール一杯と食事(これは夢でした。本当に)

合気道そのものより、それに不随するものが多いような気がします…。

きっと、合気道の楽しさ、て、それこそ無限にあるんでしょね。まだまだそのほんの一部しかわかっていないだろうけど、これからもずっと続けていって、いろんな楽しさ、いろんな思いを感じていきたいです。そのとき、そのときに感じたことを大切にして、少しずつ合気道を理解していけたら、て思っています。

どうか、皆様、これからもいろいろと教えてください。よろしくご指導お願いいたします。

気を抜かずに頑張りたい

広池正道／5級

今回5級を頂きまして有難うございます。

去年2月に入門してからほぼ1年間でようやく初めての級を頂きました。入門以来、高段者の皆さんを始め、先輩の皆さんに親切にご指導いただいて本当に感謝しています。

四捨五入で40歳のこの年頃になって、こんなに親切に物を教えていただき、また、学習できることに新鮮な感動を覚えています。

しかし今のところしっかりと身についていると感じられるのはせいぜい後ろ受身程度で、それ以外は技をかける度に右手はこう、左手はこう、足はこう、などなどいちいち頭で考えてからでないとい体が動いていないので、正直なところまだ合気道の技を掛けているという実感がありません。それよりも高段者の皆さんの技を受けていると、その不思議な技の効き具合に、まさに合気道の技を受けているということを時に

は痛みに顔をゆがめつつ実感しています。

というわけで、技についてはまだまだですが、体のほうはずいぶん鍛えられたような気がしています。入門当初、未だまともに受身もできない時分に長身のラッセルさんの腰投げをこちらもまともに腰で10回ほど受け、ムチウチになりながらも取りあえず死ななかったことで気をよくして(?)以来、右腰、左腰、股関節、右肩、ひざ等々大抵の関節は傷めましたが全てひどくはならず治ってきていることが唯一自信になっています。とはいえ皆さんのお話を聞くと上級者の方でも骨折されたり、ひどい怪我をされることがあるとききますので、気を抜かずに頑張りたいと思います。

ところで近所の奥さん方の口コミというのは恐ろしいもので、先日うちの嫁さんが近所の仲好しにうちのダンナは合気道を始めたと話したのが近所に広まり、なぜか、広池さんのご主人は合気道の達人である、とどうも誤解されているようなトンデモない話になってしまっているようです。実情がばれないうちに早く上達しないといけない事情が発生してしまいました。

《子供クラス・昇級感想文》

青山祐輝／7級

あいきどうのテストで今年はあまりきんちょうしなくてふつうにわがができてよかったです。あとテストでごうかくできてよかったです。あとちゃんとわがができてよかったです。

鷗木義晶／7級

ぼくは、しけんのためにわがをおぼえて、練習をして、わがの名前をおぼえました。たまにわがの名前が思いだせませんでした。

しけんにおちる夢をみたので、おちてるかとおもいました。

太田百合香／7級

今年の試験は五年生の時よりもきんちょうしなかったです。私は後の方だったので、みんなの技を見ていて「大丈夫かなあ、技ちゃんとできるかなあ」と思っていて、自分の番がきた時はすごくきんちょうしました。きんちょうしたけど技が全部成功してよかったです。

高木惇平／7級

試験の時うかるか心配だったけど、うかって

よかったです。これからもずっと合気道を続けて、段までなれるように稽古を毎日がんばってみたいです。

田中亮多／7級

ぼくは小学校生活最後なので小学校はかんけないけど「ぜったいにうかりたい」と思いました。本番はあまりきんちょうしなくてよかったと思う。まあうまくできたと思った。けっかうかっていたのでよかった。

和田悠樹／7級

ぼくは試験の日が待ちきれなかった。受かるかなあ落ちるかなあと思っていた。

試験の日青山くんとすることになった。当日苦手な前受け身がない技だった。そして、3月17日の合格発表の日には受かっていた。良かったと思った。

一宮大起／8級

ぼくは、三回目の合気道のしけんだった。あまりきんちょうはしなかった。ぼくはしけんの時楽しかった。中はあつくてちょっとせまくて変なかんじだった。

でも前にでた時、気持ちのスーッとしてうまくやれたと思う。わがをし終わった時大きなはくしゅが聞こえてうれしかった。

8級にうかってよかった。今度は7級をとりたいです。

遠藤文美／8級

今回の試験で8級をもらいました。ありがとうございます。

まだ私は左まえまわりうけみがうまくできません。それだけでなくわがもううまくはありません。それでも8級をもらえたのがうれしかったです。これからも練習をがんばりますのでよろしくをお願いします。

河内 元／8級

ぼくは、しけんの日が来たときとってもびっくりしました。去年のしけんが昨日のような気がしたからです。しけんをうけている時、このわがでいいのかなと思うこともありました。しけんが終わった時はほっとしました。しけんをうけたらまた今年もつづけようと思いました。

北川宗樹／8級

今回の試験はちょっとさいしょわすれてしま

った。一年間けいこしたけっかがでたと思います。夏は暑かった。冬は寒かった。3年間ずっときびしくされていた。合格したときいてとてもうれしかった。

常峰瑛宏／8級

9きゅうから8きゅうへとなつてとってもうれしいです。自分では8きゅうに多分なつてないと思いました。

パートナーのルナ君がサッカーで休んでしまったのがショックでした。

中谷政人／8級

ぼくはしけんにかつてよかったです。ミスったと思っていただけどうかってほんとうによかったです。こんどもごうかくできるようにがんばりたいです。

春名麗里／8級

しけんをうけたとき、とてもきんちょうしました。うけみは、したらあたまが少しいたかったです。

名前をよばれたときが一番きんちょうしました。わざのときはなぜかあまりきんちょうしてませんでした。

そとは寒かったけど、どうじょうの中は人がたくさんいて、あつたかかったです。でも外にはくつがいっぱいあつてびっくりしました。

かえるとき雪がふったりやんだりしてました。さむかったです。しょうじょうをもらったときはとてもうれしかったです。

古沢真琴／8級

私はこの試験を受けるのは二度目になります。なので、私は前回の試験よりもきんちょうしてませんでした。

試験を受けたあと、弟が昨日までかぜだったのですぐに家に帰りました。私は家に帰つてあと、ずっと試験にかつているか心配でした。

合気道の練習に行った時、私の「ふだ」が八級になっていたのが大喜びでした。友達も試験にかつたようで、大喜びで「やったー！ 級が上がった！」って喜んでいました。

私は春に中学生になります。大人クラスにも入ります。大人クラスに入ったらいつもよりもっとがんばって練習をして試験を受けたいと思います。

渡辺育未／8級

今年で三回目のしけんでした。きんちょうはしなかったけど、心配だったのは「交差持ちの後ろいりみ」でした。でも今年は交差持ちの後ろいりみは出てこなかったので、ちょっとだけ助かりました。

毎年級が上がるのでうれしいです。段を取るにはあと何回しけんをうければいいかと考えると、気が遠くなりました。私は段を取るまで合気道をつづけたいです。

青山澄香／9級

このあいだ合気道のしけんがありました。わたしはドキドキしました。でも、やっているとそんなにドキドキしなくなりました。わたしはびっくりしました。でも「すごいなあ」と思いました。

おわってからつぎの合気道の日、ふだを見てみるとひとつ上がっていました。わたしはあん心しました。ひとつあがっていなかったらいやだなあとおもいました。どうしてかという、あいてだけ上がっていたらくやしいからです。

金築初音／9級

3月13日にしけんをしました。あいては青山すみかちゃんでした。いつもよりしんけんにしました。

おかあさんがきたのでドキドキしました。九きゅうになれてよかったです。

児玉 悠／9級

わたしは、3月13日、しけんがありました。そのとき、いつもどおりに起きて、パパのおみおくりをしてから、それを終わらせてから、しばらくの間は、しけんのことなど、おぼえていませんでした。ママの朝ごはんを食べておなかいっぱいになったところに、しけんのことを思い出しました。

しけんに行ってから、ゆりちゃんがパートナーなので、のんびりチームの、のんびりやりながら、受かったのかなー。と家に帰ってから、思っただけ聞いて、がんばったのは、前うけみを、少し、がんばりどころだなあ〜。と、ずっと、思っていました。がんばった、前うけみ。

高木秀梧／9級

しけんするときすごくきんちょうしてしまいました。でもちゃんとできてうれしかったです。

田中淳一／9級

ぼくのときはきんちょうしました。でもおわたたらすっきりしました。それと大人の人がはく力があってすごかったです。合格はっぴょうのときに合格だったからうれしかったです。

中嶋太郎／9級

今年のしけんはあまり去年と変わらなかったから覚えていました。少しかんたんではじめてのプレッシャーもなかったです。九級がとれてうれしかったです。

古沢亮太郎／9級

ぼくはテストの前にインフルエンザでテストをうけれるかわかりませんでした。テストをうけてよかったです。

でもテストをうけてる時は、頭がふらふらして少しボーッとしました。合格しているか心配でしたが、合格しててほっとしました。

黒田大雅／10級

ぼくは今年のはじめて審査をうけました。練習のときはそんなこと考えなかったけど、本番は人がたくさんいてぼくらをみていたのでとても緊張しました。

みんなは級をもっているけど、ぼくは級をもっていないから「とび級できるといいな」とおもっていました。だけどできなかったから、すこしがっかりしました。

ぼくの今年の目標はちこくをしないことです

澤本佳奈／10級

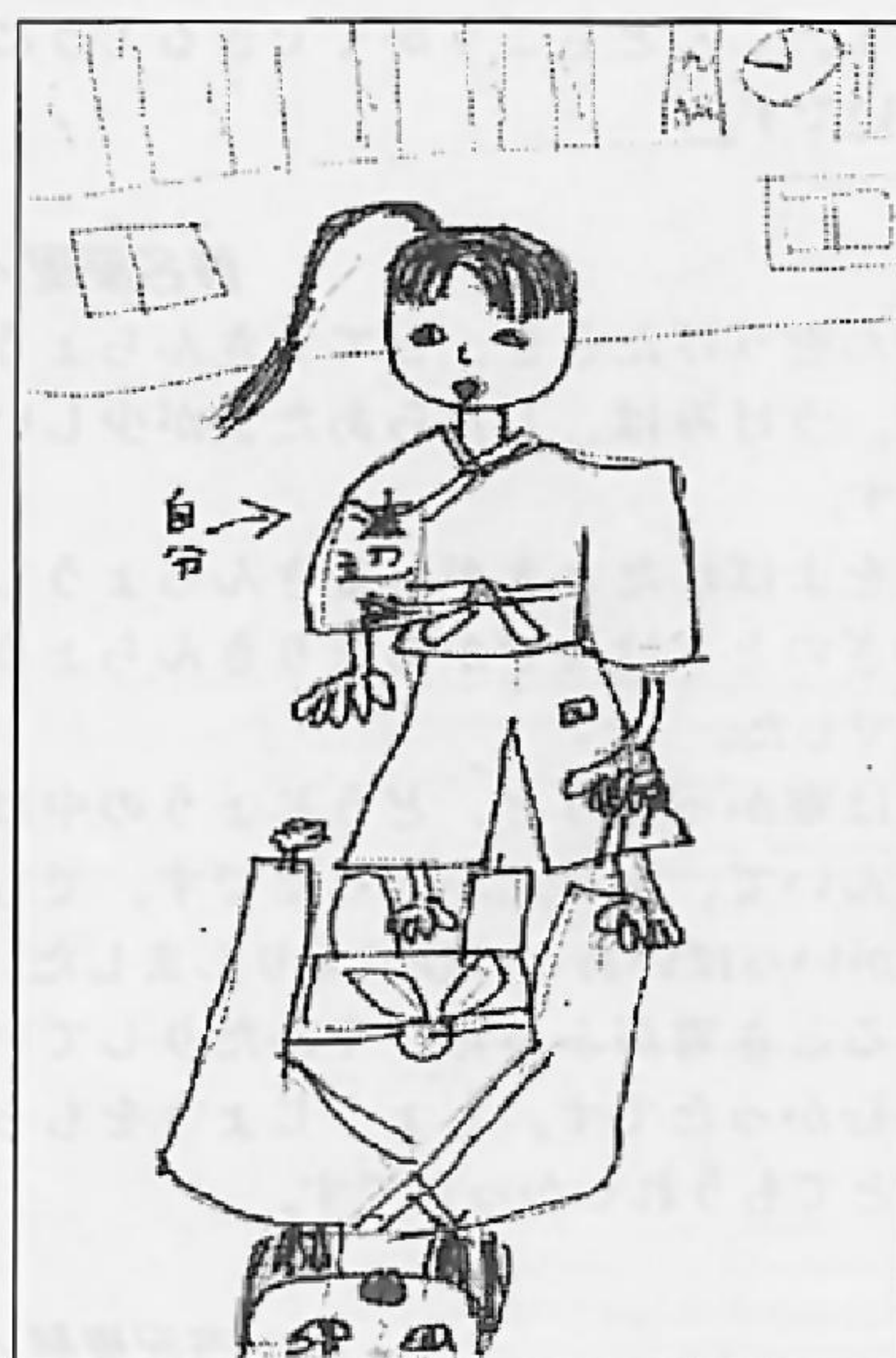
去年の1月から入ったので去年はでれませんでした。今年はその分練習をすごくがんばりました。けいこもできるだけ行きました。試験当日すごくきんちょうしてました。けど、技は上手くできました。十級受かってうれしかったです。

児玉 渉／10級

てすとをたのしみにしてました。前うけみがうまくできたとおもいます。

田中佐和子／10級

初めてのしけんでごうかくしてとってもうれしいです。



(画：渡辺育未)

—これまでの行事—

11/23(祝) 兵庫武道祭(県立武道館)
11/28(日) 関西地区合同研鑽会(ひびき道場)
12/5(日) 横田前道場長追悼演武会・総会・忘年会(せいぶ館)
12/18(土) 遠藤先生講習会(せいぶ館)
12/19(日) " (王子スポーツセンター)
12/25(土)～26(日) 松村先生講習会(県文化体育館)
12/26(日) 稽古納め
12/30(木) 餅つき
1/9(日) 稽古始め・新年会(せいぶ館)
1/15(土) 栗林師範講習会(せいぶ館)

1/16(日) 栗林師範講習会(神大医学部)
1/20(水)～2/3(木) 寒稽古
2/8(火)～9(水) 野倉夫妻(上海国際合気道クラブ)
2/11(祝) 堀井三田道場長講習会(王子スポーツセンター)
2/13(日) 全日本古武道演武大会(県立武道館)
2/20(日) 和田・松平 五段昇段祝い(若竹)
3/13(日) 昇級昇段審査・演武会・直会
3/20(日) 三田道場演武会(駒が谷体育館)
3/27(日) 津山合気会25周年演武会(津山総合体育館)
4/23(土) 遠藤先生講習会(せいぶ館)
4/24(日) " (王子スポーツセンター)

—これからの行事—

5/21(土)～22(日) 遠藤先生講習会(せいぶ館)
 5/28(土) 全日本演武大会(日本武道館)
 7/19(火)～8/2(火) 土用稽古
 9/11(日) 昇級・昇段審査
 9/17(土)～19(祝) 絃武館30周年行事
 10/2(日) 関西合同研鑽会(ひびき道場)

10/15(土)～16(日) 遠藤先生講習会(津山)
 11/3(祝) 兵庫武道祭(県立武道館)
 12/4(日) 横田前道場長追悼演武会・総会・忘年会
 (せいぶ館)
 12/17(土)～18(日) 遠藤先生講習会(せいぶ館)
 12/25(日) 稽古納め・大掃除

せいぶ館 お花見風景

今年の桜は本当に綺麗でした…(参加者談)。



でも、桜を見ている人がいません…

<編集後記>

◆審査後の宴会である先生が。「審査はなあ、審査しとる方も審査されとるからなあ」と。ちょっと驚きました。審査する以上、下手な審査はできないということでしょうか。取りと受けがベストを尽くして良い稽古。審査する方とされる方がベストを尽くして良い審査。真剣勝負はこれからも。私もがんばります。(佐藤彰雄)

◆せいぶ館に入会して早くも3年が経ち、いつの間にか新人とは言われなくなって、このような役目を頼まれるようになりました。感慨もひとしおです。今回は原稿の受け取り等で色々と不手際があり、ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。次回は(多分)大丈夫です。(玉村淳子)

[せいぶ館道場 入会案内]

■会費

- ・入会金 5000円
- ・会費 なるべく3ヵ月分以上を前納してください

一般	5000円/月 (一括払いの場合: 28000円/半年 50000円/年)
小～大学(24歳以下)・65歳以上	3000円/月
ビジター料金 <1週間有効>	1500円/一般 1000円/小・中・高・大学生(24歳以下)・65歳以上 2000円/本部師範およびそれに準ずる先生にご指導頂く日程の場合

- ・休会時は事前に届を出すと、500円/月になります 会費の滞納が6ヵ月以上続いた場合は退会とみなします
- ・会費を銀行振込する場合: 日新信用金庫・宇治川支店 普通No. 340076 せいぶ館佐治孝雄(セイブカン サシタカオ)
- ・会費を郵便振替する場合: 口座番号: 14340-56119711 加入者名: せいぶ館佐治孝雄(セイブカン サシタカオ)

■稽古中のケガ、その他事故については会員個人の責任とします

- ・紛争は当事者同士で解決してください
 - ・スポーツ安全保険に加入してください <団体保険は毎年3月末切換えです 掲示にご注意ください>
- (財)スポーツ安全協会 〒650-0011神戸市中央区下山手通4-18-2 兵庫県健康公社内 Tel (078) 232-9651

■気持ちよく稽古ができるように

- ・道場内外は来た時よりも美しくしましょう ・道場内は原則として禁煙・禁酒・禁飲食・禁携帯電話です
- ・道場内には私物を置かないでください もし私物を1週間以上放置している場合は道場で処分します

■稽古時間 <2005年5月現在/祝祭日・年末年始等は掲示にご注意ください/★マークのクラスに一般も参加できます>

	朝のクラス	昼のクラス	夜のクラス
月	7:00～8:00 中尾		18:30～20:00 (初心者クラス)★ ラッセル
火			18:30～20:00 佐伯
水	7:00～8:00 中尾	14:00～15:30 (レディース)★ 明子	18:30～20:00 山崎
木		16:45～18:00 (子供クラス)★ 有本	18:30～20:00 (初心者クラス)★ 佐治
金	7:00～8:00 中尾		18:30～20:00 澤辺
土	9:30～11:00 中尾	14:00～15:30 (子供クラス)★ 佐藤	18:30～20:00 松平
日	9:30～11:00 中尾 11:10～12:10 濱崎	— [毎月第2日曜: 藤井]	1 [毎月第2日曜前日: 藤井]

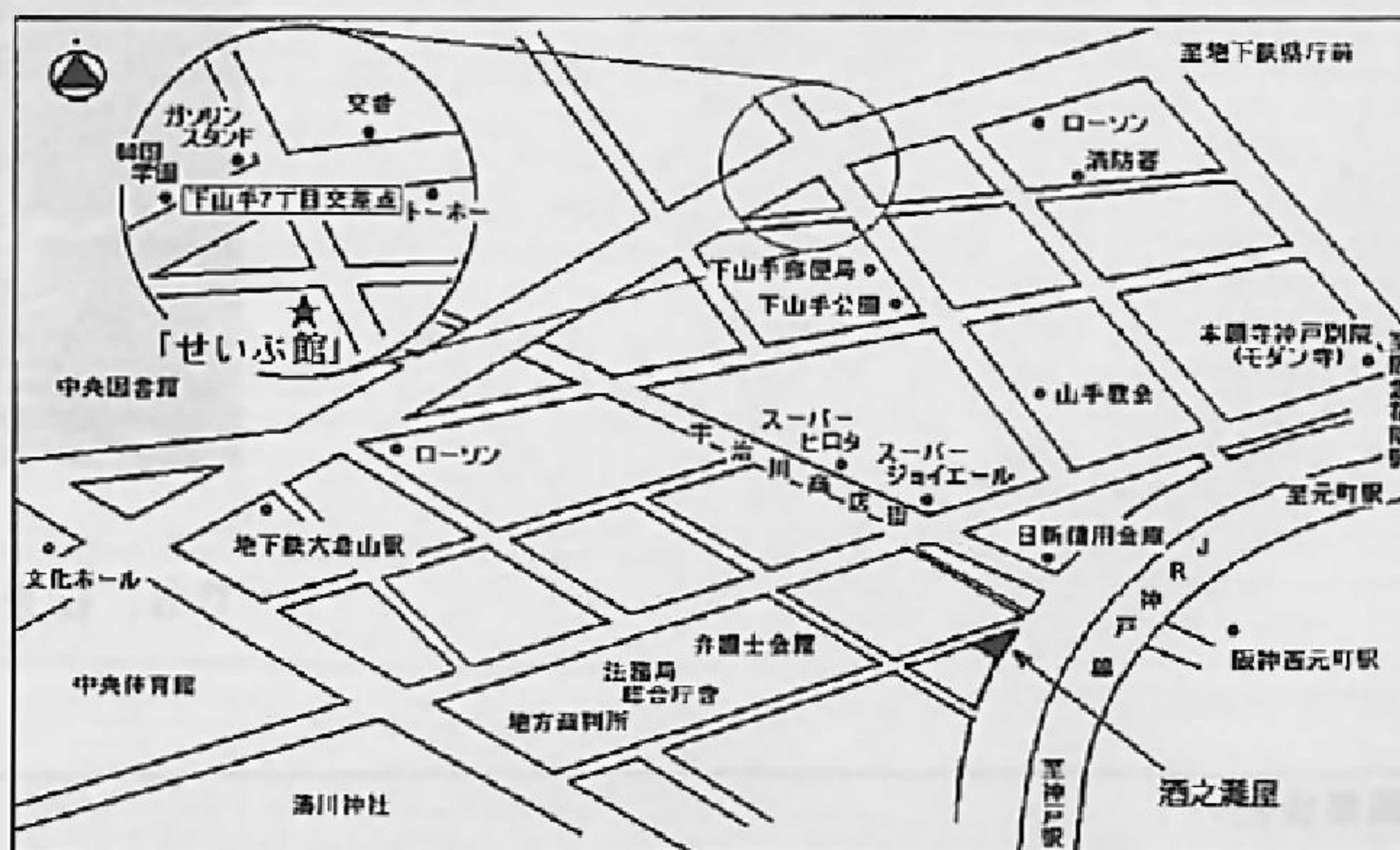
明石道場 水: 19:00～20:30 (草野)

杖道部 <神道夢想流> 水: 13:00～13:50 (明子) 土: 11:30～13:30 (小畑) 毎月第1日曜 (古流&自主稽古): 13:00～15:00 (小畑)

会費: 1000円/月

■道場への最寄り駅 (徒歩時間)

- 地下鉄 大倉山駅から3分
- 地下鉄 県庁前駅から5分
- 阪急 花隈駅から5分
- 阪神 西元町駅から7分
- JR 神戸駅から12分
- 高速 神戸駅から12分



(財)合気会神戸支部 せいぶ館 支部長: 中尾眞吾/道場長: 濱崎正司/副道場長: 打越明夫

〒650-0011 神戸市中央区下山手通 8 丁目20-17 えぬビル3階 白蘆林内 Tel (078) 382-1659 / FAX (078) 341-3980

<インターネットにせいぶ館のホームページがあります... <http://www.ne.jp/asahi/aikido/seibukan/>>

— 白蘆林(はくろりん)のこと —

少年や若者が合気道を通じて強く逞しく、優しい思いやりのある人間になれるように。また、大人もそうあり続けられる、そんな青少年健全育成の場でありたい。そういう思いから、下村湖人の「次郎物語」を基に「白蘆林」と名付けました。